

ところなり、いみじき非道の事も、山階寺にかゝりぬれば、又ともかくも人も、のいはず、山しなだうり、とつけてをきつ、

〔漢語大和故事一〕仰テ唾 コレハ人ヲ害セントテ、還テ己ガ身ヲソコナフト云諺ナリ、四十二章經曰、惡人欲害賢者、仰天而唾、唾不汚天、還汚己面、世話是ヨリ本ケリ、

〔日本靈異記中〕己作寺用其寺物作牛役縁第九
冀无慙愧者、覽乎斯錄、改心行善、寧飢苦所迫、飲銅湯而不食寺物、古人諺曰、現在甘露、未來鐵丸、者其斯謂之矣、

〔平家物語一〕祇園精舎之事

祇園精舎のかねのこゑ、諸行むじやうのひゞきあり、しやらさうじゆの花の色、盛者必衰のことはりをあらはす、おごれるもの久しからず、只春の夜の夢の如し、

〔漢語大和故事二〕奢者不久 老子經曰、自教者不長、

〔日本靈異記中〕見鳥邪淫、猷世修善縁第二

夫將火炬時、先備蘭松將雨降時、兼潤石板、示鳥鄙事、領發道心、先善方便、見苦悟道者、其斯謂之矣、

〔平家物語七〕福原おちの事

平家はふく原のきうりに著て、大臣殿しかるべき侍老少數百人召ての給ひけるは、しやく善のよけい家につきせず、せき惡のまわう身におよぶが故に、神明にもはなたれ奉り、君にもすてられまゐらせて、帝都を出て旅泊にたゞよふ上は、何の頼か有べきなれども、一じゆのかげにやどるも、先世のちぎりあさからず、同じながれをむすぶも、他生のえん猶ふかし、略

〔義經記三〕伊勢三郎義經の臣下に初て成事

御ざうし今夜一夜はたゞかし給へ、色をも香をも知る人ぞしるとて、とをさぶらひへするりと